

飯能市緊急財政対策の取組に関する説明会

日時 令和8年1月17日(土) 午後1時30分から午後4時00分頃まで

会場 本庁舎別館会議室 1、2、3

意見、回答

No. 1

・ 区画整理によりバイパスができるなど大変ありがたいと思う反面、なぜ未だに工事をしているのか疑問なため質問する。笠縫の岩沢地区にある白髪神社のところに踏切があったが、話し合いを重ねた上、廃止させ、立体交差をつくったのだと思う。しかし廃止させた踏切の西側100mほど先に人が1人くらいしか通れない踏切があり、その狭い踏切の南北に大きな広い道路をつくっている。西武鉄道のホームページでは、なるべく踏切は廃止していく方向でやっているとある。立体交差ができたことで利便性としては十分だと思うが、何のために狭い踏切に広い道路をつくらなければならないのか。歳入よりも歳出が増えればお金がなくなるのは当たり前のため、私達市民が一番目に見える工事の見直しだとかを廃止するのが先決で、細かい色々な事業を廃止するというのは、お金を見直すところが違っているのではないかと思いますがいかがか。

→ お質しの、第4号踏切については、南北に9m道路ができる予定。その道路については、踏切を平面交差させる計画としているため、今後は踏切も両脇に歩道が付き、9mに拡幅される計画となっている。区画整理の事業計画に基づいたものであり、今後も進めていくため、ご理解いただきたい。

・ 笠縫や加治東、双柳地区内には中だけが広がって出入口が狭い道路がたくさんある。そういった道路に人や車の流れが多くなったかという、出入口はそのままのため、多くなっていないと感じる。今後9m道路ができたとしても近隣住民としては利益を感じないため、本当につくる必要があるのかももう一度伺いたい。

→ まずは狭い踏切の幅を広げる工事を先行して進めている。間もなく下水も水道も線路の下を通す工事が終わるところのため、もう少しお待ちいただければ、区画整理の事業効果が感じられると思うので、期待してお待ちいただきたい。

No. 2

・ 名栗のふるさと会館、名栗地区行政センターが今回話に上がっていて、私自身シルバーで名栗地区行政センターで働いている。シルバーセンターからは最初4時間と言われていたが、その後3時間、そして2時間になるかもしれないという話があった。3時間にしていきたい。交通費もいただかないでやっているため大変困ってしまう。

→ 約束はできないが、検討させていただく。

No. 3

・ 資料の対応方針の中にある「基本方針」の受益者負担の適正化について歳入を増やす方針で記載があります。話を伺う限り、色々な歳出を抑えるばかりですが、抜本的に歳入を増やす方法として、ごみの有料化やトーベ・ヤンソンあけぼの子ども森公園の入場有料化なども考えられると思う。そのあたりは検討されているのか。ごみの有料化については積極的に進めていただいても構わないと感じる。ツーデーマーチを廃止されてしまうよりは、ごみ袋を有料で購入する方が歓迎する。

→ 多岐にわたる提言をいただき、ありがとうございます。ごみの有料化については検討をはじめたいと思っている。トーベ・ヤンソンあけぼの子ども森公園については、著作権の関係で入場料を徴収することができない。その代わりに、駐車場を有料にするなどの他の方法を検討していきたいと思う。

No. 4

・ 事務事業見直し検討シート第 3 弾で廃止に向けて進めていく施設が上がっていたが、各施設でどのくらい利用者があるのか統計を示してほしい。そうでないとその施設が不要で廃止しても仕方ないという判断ができないですし、こども図書館はとても大切な場所だと思っている。

→ こども図書館については、第 3 弾から見直しを行い、第 4 弾の見直し検討シートでは今までどおりとはいかないが、継続させていただくようになった。各施設の R6 年度利用者数については、こども図書館が 16,553 人、観光案内所が約 13,000 人となっており、たくさんの方々に利用いただいている。

No. 5

・ 私は平成 17 年に飯能市が森林文化都市宣言をした翌年に移住してきたのでまだ新参者。今回こういった話が出て大変驚いている。先ほど財務部長さんの話を聞いて、今回の事態になるまでに数十年くらい時間があつたということですが、予算の編成時に 22 億円もの乖離があるというのは、一般企業でいうとトップが何か変わらないといけないぐらいの問題かなと思っている。もちろんその数十年の時間のため、ここに座ってらっしゃる皆さんだけの責任とは言いませんが、シルバーセンターの方も困っているという話もあつたように、市民にばかり負担を強いるのではなく、ここに書いてあるプランのとおり、プランの言葉もぼんやりしていて本当にできるのか疑問がありますが、二度とこのようにならないようにしてほしい。他市でも同じ問題を抱えているのに同じ状況にはなっていないところがあるため、なぜ飯能市だけこんな財政難になってしまっているのか今も疑問に思う。ぜひ立て直していただきたい。

→ 二度とこのようなことがないように尽力していく。

No. 6

・ 今回、休館や廃止という内容が山間地域には多く提示された。このやり方、使い方の問題ですが、現在施設を利用している住民、利用者と相談した上でどうしたら良いか今後の方針を出すというのが本来のやり方だと思う。名栗では自治会支部から市長への要望書を提出した。その中にもあるとおり、相談いただければ地区の方でも公民館の利用料や掃除や草刈りなども自主的にできるところは行ってもらうなど、

出せるものは出していこうという提案もしている。そのため、まずは住民に相談していくことが大切であり、今回のように最初に発表し、その内容が決定事項として、市職員が住民に説明したことは、非常に腹立たしく思っている。住民と一緒に考えて、休止にしても、廃止にするにしても、良く相談した上で計画的に進めていただきたい。特に休止・廃館の場合はその後撤去することまで考えていたのか。名栗中学校は避難所にはなっているが、上水道が使えないため、利用ができない。売ることも貸すこともしなかった。休館・廃館する場合は、その後のことまで考えているのか伺いたい。

→ まず、名栗のあすなろ会館、ふるさと会館については、第3弾から見直しを行い、今までどおりとはいかないが、継続させるという内容に至った。地区行政センターの図書コーナーについても、機能は継続させる。保健センター名栗分室については閉館とさせていただいている。そのほかのことに関しては、協議をさせていただければと思う。

→ おっしゃるとおり、住民や利用者の方々や協議をせずに方向性を発表したことについては、市としても大変心苦しく思っており、市民の皆様、利用団体の皆様にご不便、ご迷惑をおかけしていると思っている。先ほど説明させていただいたとおり、令和8年度予算編成においてこのような事態に陥ってしまったため、今回の急な対応を取らせていただいております。本来であれば、皆様と色々な協議を持って、方向性を出していく時間が当然必要だと思っている。現在、継続としている施設については、今後の在り方の検討をする上で、地域の皆様と話し合いながら進めていきたいと思っているため、ご協力をお願いしたい。

No. 7

・ 広報に休止を予定している補助金負担金という欄で、学習支援補助金があります。現在、生活福祉課主催の中学生のための学習支援教室のお手伝いをさせていただいておりますが、こちらの休止は非常に困ると思います。この支援対象は生活困窮家庭やひとり親家庭、そういったところから来ている生徒さんのため、私立の塾に行くなどの経済的な余裕がない生徒さんを支援している。それが廃止になってしまうと生徒も困ってしまう。今後将来の飯能市を背負って立つ生徒たちをもっと温かく支援してあげたらと思う。この休止または廃止という案はどうなっているのか。

→ 現在の学習支援事業については、市としても、不要なものという考えは一切ございません。先ほどの第3弾の見直しで財源不足が生じた中で、市が独自の財源を使って行っている事務事業につきましては、法令によって実施が義務づけられる義務的経費に比べ、やはり見直しの対象として、上げざるを得ないということで、今回聖域なく見直しを行う中で、俎上に載せさせていただいたもの。今回このような見直しをしたが、今後、廃止していくというようなものではない。令和8年度においては、この緊急財政対策の中でもどうしても義務的経費の方が優先順位が高いという方針のもとで、縮小をさせていただいたため、今後の再開に向けては、市としてもしっかりと財政再建を図り、取組の方をしっかりと進めていきたいと思う。

・ ということは、これから継続は可能だということか。

→ 今回お示した考え方については、令和8年度においては、この方向で市として進めさせていただきたい。再開について、この場で断言はできないが、令和9年度以降、歳入確保また歳出抑制を継続することで、再開等に向けての努力をしていきたいと考えている。

- ・ 学習支援事業について、再度確認した結果、今回の見直し対象には含まれていないため、従来どおり継続する考えでいる。今後とも協力をお願いしたい。

No.8

- ・ 1月の広報を見て、未曾有の財政危機という項目があり、びっくりした。昨年2月に財政危機のことについて全員協議会の場でお示しになったとのことで、地域の学校、みんなその認識をしていた。だが、その後、市議選があったり、市長選があったりして、そこでは問題にならなかった。それが選挙が終わった途端に、口が悪いですが、市の方が財政危機という騒ぎ始めた。資料の最後方の、来年度予算案を見ると、財政調整基金は14.6億円に積み上がっている。収支の関係もうまくいってる。苦労はあったと思うが、未曾有の財政危機で、一生懸命やらなきゃいけない中、1年でできてしまっている。そのため、市の方が騒いだというのがよく分からない。むしろ脅されたのではないかと感じた。先ほどの方も仰ってましたが、予算の関係あるいは色々な使用料の関係なども含め、もっと市民と話し合う、市民の声を聞いて、取り分け、関係する人の声を聞くことは大事なこと。14日の全員協議会では、これから5年間の行政改革大綱に移して取り組んでいくとのことだが、これから5年かけて先ほどの目標を実現していくのだから、時間はあるため、ぜひ、市民と話し合う場、それから市民の声が生かせる仕組みを考えてほしい。

→ 確かにそのとおり。今後、そういった機会を極力作る対応をしていけたらと思うため、よろしく願いたい。

No.9

- ・ 市長給与他職員及び会計年度の給与の人員費減とあるが、何%ぐらいを実現するのか伺いたい。調べたところ、飯能市長の給与は月93万円と出ていた。市議会議員の方々も、選挙の前以外は共産党以外は何をしているか分からなくて、多額の給与を支払うのはいかがなものかと思っている。

→ 市長給与の削減の関係については、今の時点で、10%が妥当かなと考えている。その他については、まだ決定していないため、市長の給与だけお答えさせていただく。

- ・ その前の4年間も新井市長だった。年に1,000万ぐらいの給与かと思うが、この4年間で4,000万程もらっていて、市民の私達ばかり搾取されているのかなという気がしてしまう。もう少しどうにかならないものか。夕張市長の給与は月25万。もう少し考えた方がいいのかなと思う。

→ 当然その辺は考慮して今後対応させていただく。

No.10

- ・ 教育長に伺いますが、飯能の子供の数がだんだん減ってきている中で、魅力ある飯能市の教育を実施するだとかを含めて飯能市の財政が厳しい中でも、こんなことをやってるからぜひ飯能市に来てほしいというPRができないのかと思う。今回の図書館の件について、現場の先生たち、あるいは保育園の先生たちに意見を聞いたり、利用している子供達の声聞いたのか。それはすごく感じた。もう一つは、この場にな

ぜ市議会議長がいないのか少し不思議に思っている。このような場合は首長、教育長、議長が来るはずだが、市と議会の関係もよくないのかなと変に疑ってしまう。予算特別委員会とか決算特別委員会があったわけで、議会にもそれなりの責任があると思う。なぜこの場に議長がいないのか、これは質問。

→ 飯能市は現在、市内小中学校で誰一人もれない質の高い学びを保障する学びの改革という教育に取り組んでいる。市内全教員が、最低年 1 回事業研究会を行い、指導力の向上に努めている。道半ばであり、まだまだ確保、定着まではいかないが、支え合い学びにおいては、徐々に進んでいる状況。4 月から新たに第 4 期教育振興計画をスタートさせるが、第 3 期は挑戦というキーワードだったが、第 4 期は定着という言葉に変えて、進めていきたいと思っている。また図書館に関しては、保育所の先生や読み聞かせをしている先生方がたくさんおり、そういった環境を整えるよう要望をいただき、今回特にこども図書館は継続との見直しが行われた。残念ながら名栗分室、富士見分室、奥むさし小学校内にある分室については休館となったが、図書室機能は残るため、閲覧は可能として運用していく。市内学校の図書室には、図書整理をする方が整理をしており、また、学校には読み聞かせボランティアもいるため、そういう方をお願いをして、お話の図書室もしっかりと継続していきたいと思う。

→ 端的に議会の方の話をさせていただく。やはり皆さんがおっしゃるとおり、昨年 2 月緊急財政対策という形で、市の方から公表されて、市議会としても注視してきた。その中で、今日のお話の中でも非常に 10 月、11 月の時点での市の方の対応が求められて、事業見直しの内容が非常に厳しくなったことを受けて、12 月定例会の中でも各議員から、質問、質疑を通して、提案・提言をさせていただきながら、また、市長部局との協議も度々行わせていただきながら、現在に至っている。皆様も本当に不安を抱えている中での本日の説明会ということだが、市議会としても市民の皆様の不安や負担をなるべく抑えていくということで努めてきた状況。この内容については、3 月定例会で予算審議という形になるが、皆様のご意見をいただきながら、しっかりと市議会としても予算の審議を進めていく。その上で飯能市が持続可能な財政となるように、市民の皆様とともに協力させていただきながら、元気な明るい飯能市を作りたいと思っているため、どうぞご理解とご協力をいただければ、大変ありがたい。（栗原議長）

→ 運営側に市議会議長がいないことについて、今回の説明会は執行部の方で責任を持って取り組むこととさせていただいたため、声を掛けていない。

No.11

・ 23 ページ一番下段のところ、第 4 弾を見た限り、第 3 弾で収支の乖離が - 11 億円あったところ、よく見ると、歳入が 15 億円増えているだけで、その内訳は恐らく、26 ページの収入増が効いていると思う。そうすると、第 3 弾から第 4 弾で全然進んでいないと読み取れる。その上で質問だが、第 2 弾、3 弾、4 弾で行った見直し事業の歳出規模を教えてください。ただ単純に、なくしたからどうというのではなく、なくすということは歳入も減ってしまうということを考えているのか教えてください。その上で、大した金額になっていないのであれば、全てやめていただきたいと思う。

→ 23 ページ中段、「第 2 弾、1 回目の見直し」の時など、こちらの方に、これまでの見直しの経緯によりましての歳入歳出総額の動きについて表している。お質しのとおり事業をなくすことで、例えば、国県支出金を伴う事業を見直した場合には、歳出を落とせば、歳入の国県支出金も当然減りますので、当然

それを加味して、こちらの収支の方はまとめている。市として一番重視をしているのが、とにかく、市税などの一般財源です。例えば、10億円の道路事業があった場合、5億円が国庫補助金としてきて、残りの5億円は地方債を充てることができれば、一般財源の持ち出しはゼロで、事業が単年度で言うことができちゃう。そのため、この10億円の事業を査定で落としても、一般財源は1円も生まれてこないという状況になる。今回はそういった事業に対して、どうしても市が単独で行う、一般財源を充当する事務事業を見直しの最優先に上げるということで調整をさせていただいた。逆に、特定財源がある事業であっても、それに関わる職員の人件費も非常に大きなものがあるため、中には特定財源があるにもかかわらず、人件費を抑制するために、補助事業であっても、事業自体を廃止して、職員の人件費を抑制するという見直しを行ったものもある。10/28の予算要求額をご覧いただくと、歳入総額が318億円、歳出総額が340億円、収支乖離が22億円なっていますが、実施計画の要求額から10/28の予算要求額歳出を見ると、344.3億から4億円ぐらい縮減になっている。ただ、当然その歳出に伴う歳入の方も落とさざるを得ないため、322.5億から318億円という形で、歳入の方も相対的に落とすという調整を行った。私どもが重視していたのが歳出充当一般財源の額であり、国県支出金や地方債などを除く、一般財源が必要になりますので、その額をどれだけ確保できるかというのが、一番の目安とするところです。今回私どもが目標をしたのが、2行目にある、「令和8年度当初予算目標額」の歳出充当一般財源217.5億円です。これはどこから出たかという、「令和7年度当初予算額」の226億円が歳出充当一般財源にあるが、当時、今年度の市税総額が、令和8年度も9年度も伸びが期待できないということが、財政計画に出ていたため、8.5億円の財政調整基金に頼らない予算を組むためには、令和7年度予算の226億円の充当一般財源から8.5億円をマイナスした217.5億円、これを何としても実現したいというのが全庁の目標だった。この一般財源を縮減すると、どうしても市が単独で任意で行っている事務事業、本当に細かい補助金や交付金の見直しを行わなければ、大きなハード事業を落としたとしても生まれれないという実態だったため、それを一つ一つ積み上げて、最終的に219.7億円の一般財源充当額となった。目標から2億円程度高い状況になってしまったが、ここまでには調整したところである。お質しのあった事務事業の削減効果等については、やはりそこをしっかりと明らかにするようにご意見をいただいているため、2月の予算案を提出するときには、その資料といたしまして、今回の見直しや廃止、休止、縮小によりまして、どれだけの効果額があったか、逆に歳入でこれだけの縮減があったか、できましたら一つ一つの事業ごとに金額を出して、市民の皆様にもしっかりお示したいと考えているため、今日は説明で申し上げることができないが、ご理解をいただきたい。

・ 第2弾、第3弾、第4弾の全体の効果総額も分からないのか。

→ 全体の総額としては、第3弾の見直しで言うと、予算要求のあった10/28時点で歳出総額が340億円だった。それを市民の皆様のお痛みを伴う見直しによりまして、11/18の2回目の見直しでは、事業費を18億円の減額をさせていただいた。当然歳出を削るため、歳入についても、-7億円の減額になるという関係となっている。最後の第4弾では、第3弾の322億から326億と増えている。見直しなのになぜ増額になっているかというと、社会保障関係の扶助費が令和7年度においても、右肩上がりな状態にあり、これから議会に提出する予定ですが、3月補正予算では、扶助費全体で数億円単位の

増額補正をお願いする。7年度でそのような伸びが見られたため、8年度の予算でも、やはり扶助費の増額をしなければ、支援が必要な人に給付ができない事態が想定されたため、この322億円から326億円に伸びた。こども図書館が復活した財源などもあるが、それ以上に、扶助費の増額分がほとんどと考えていただければと思う。総額単位でそれぞれの見直しごとの差分をご覧くださいと、その見直しによる効果額だと考えてよろしいかと思う。第4弾だけは、このような特殊な事情が含まれていることをご理解いただきたい。

No.12

・ 先ほど岩沢の方が、中学生の学習支援についてお話されたが、8年度は見直して9年度からは復活するって言われたが、私は長い間教育現場にいて、継続の大事さをとても感じる。子育てをした人は皆分かると思うが、1年間子供を育てなかったら赤ちゃんはどうなるかという、恐ろしくて考えられない。ぜひ継続を真剣に考えていただきたい。

→ 検討させていただく。

No.13

・ 新井市長が市長選の際のパンフレットを持ってきた。今こそ、市政刷新。これに感激した。市長就任は8月だったので9月の市議会にも行った。そのやりとりを見ていて、復活しないな、財政はもっと深刻になるのではないかと思った。私は財政のことは全然分からないが、去年の12月に質問した。回答もいただきました。率直に今何が問題かを市の職員が考えなくてはいけないと、さらに昨日、提言書を出した。この状況で職員1人1人が価値のある仕事をしてほしいと。私は飯能市議会を傍聴してこれは駄目だなと思ったから、他の市はどうしてるのか秩父市を見てみた。秩父市の議会は議員が市民目線で話す。これを見て、秩父市は良くなる感じた。秩父市の財政調整基金14.4億円、人口も6万人を切っちゃっている。しかし面積が広いので、やることがいっぱいある。総合振興計画の資料も自分たちが作ってる。ただ飯能市は外部委託、前回の第5次の振興計画は1,500万ぐらいないかな。読んだがよく分からない。2〜3年で担当者が変わるため、自分の責任感はほとんどない。私は民間会社で仕事してましたが、ベンチマークは絶対ある。他社のいいところを見ないと、いいことができない。昨日のお願いは、横瀬町は5年先を見て職員自ら計画を立てている。財務課長さん、ぜひ5年、10年先を見て考えてもらえないか。最後の質問。奥むさし駅伝や飯能まつりなどの文化活動を止めてしまう。金額的にいくら使うのか、金額だけ教えてほしい。一度止めた事業の復活は本当に大変なこと。合唱連盟の事務局やっているが、コロナで2年第9演奏会ができなかった。3年目が止まったら駄目だと思ったので、仲間と協力して、スクリーンに以前のライブのときの映像を出して、なんとか実施した。それがあったから令和6年、昨年12月にしっかり演奏会ができた。去年は素晴らしかった。

→ 中長期の財政計画について、ご意見をいただき、ただ今10年計画を遅ればせながら作成中のため、公表させていただく。また、イベント関係の経費について、7年度の予算ベースで申し上げると、飯能新緑ツーデーマーチが委託料として800万円、奥むさし駅伝競走大会委託料が450万円、飯能まつり協賛会補助金が600万円となっている。これらが直接的な経費だが、ここに携わる職員の人件費、定

量的な数字が出せなくて申し訳ないが、こちらがかなりの規模となっている。所管課であるスポーツ課だけでなく、協力職員として全庁体制で取り組んでいる、また、地域の皆様のご協力等を考えると、相当の人員費がかかっていると考えている。

No.14

・ 4 ページにダイア市との財政調整基金残高の比較を示されているが、行田市や本庄市との比較をした方がいいと思う。人口規模から見ても狭山、入間は 14 万人程度。また、他の 4 市は市町村合併を経験していない。次の 5 ページで、飯能市元利償還金を挙げているのであれば、面積は少し違うが、同じく市町村合併を経験した上、人口規模が似ている、2 市との比較を知りたいと思った。近くにあるというだけで、比較するのは行政的にはよくある手法だと思うが、もう少し工夫いただければと思った次第。

→ 標準財政規模との比率は分かりかねるが、埼玉県公表「令和 7 年度市町村予算」によると、6 年度末の残高について、行田市が約 16 億円、本庄市は約 48 億円である。

No.15

・ 市の状況が大変厳しいことは理解した。その上で、この緊急財政対策で行われている具体的な見直しは、誰が構成員となり、どのような会議で決定されたものなのか伺いたい。実際に利用されている市民の意見は反映されているのか、今回の説明会もあらゆる人が観覧できる形で公開されるのか、説明会で出た意見は一言一句記録して、速やかにホームページなどで公開すると約束いただけるのか、広報紙には最終決定ではないとあるが、最終的には誰がいつどこで、やるやらないを判断するのか、最終判断の前に住民等との合意形成を行うことを考えているのか伺いたい。

→ 色々といいただいた意見等を踏まえ、これからの進め方などをまた整理した上で考えていきたいと思うため、よろしく願いたい。

No.16

・ 市長は財政調整基金を絶対命題でもない、標準財政規模の 1 割にしようとのことで、20 億円にするために、住民の生きがいや楽しみ、日常、あるいは必要な物を奪い、住民の福祉をないがしろにするのは、間違っていると思う。住民直結のものを休止・廃止にするのは見直してほしい。市長、議会の行政経営の失敗を住民に押し付けていいのか。私達の楽しみを上から押さえつけて奪ってしまう、今回の発表はそういうものだった。緊急性のない事業を見直す、市役所内を見直すなどで本当はやるものではないのか。小さなことだが、今日配布された資料のホチキス留めも普通のサイズのものでいいものを大きい頑丈なサイズを、私の場合 3 本使っている。また、市長が年に 1 回やっている住民説明会の配布資料など必要がないものまでカラーで配布していた。そういった小さいことから見直すことをやっていただけたら、よっぽど市民にとっては不自由もない。

→ これから行政運営していく上で、その辺を十分気をつけ、ご指摘をいただかないように取り組んでまいりますので、ご理解いただきたい。

No.17

・ 先ほどの学習支援の話でも思ったが、何かよく分からない。第4弾までいったが、第5弾はあるのか。見直しをされているかされてないかが私達には見えなくて、継続されるのであれば質問された方の質問は必要なかった。私もボランティアでいくつか関わっているが、本当に小さなここに名前が全然出てこない、事業が休止なのか廃止なのかはっきりしないで、そういった事業が100だったりあると書いてあるが、どこかに発表されているのか。それが自分の関わってる事業がどうなるのか分からない。名前が載ってきていれば、なくなってしまうと分かるが、載っていない。そんな小さな事業まで見直されてしまって、私もボランティアで関わっているので、本当に材料費程度しかお金は出ていない。それも出せないというのであれば、お金なしで事業を続けてほしい。ボランティアで続けますから。そのくらいの気持ちではいるのですが、それでも廃止と言われてしまうと、何もできなくなってしまうのが寂しい。こども図書館が、休館から継続にいきなり変わったが、私の知っているボランティアグループは休館と言われて解散してしまった。もったいないと思う。今は第4弾だが、第5弾が出るのか、いつはっきりするのか伺いたい。また、私に関係してる事業が名前が載ってないので、全事業をオープンにしてほしい。

→ 第5弾という話があったが、第4弾までで、これを実施に向けて取り組み、2月の全員協議会で、最終的な案を出していきたいと考えている。

→ 広報はんのうでは紙面の関係で一部しか掲載できずに申し訳ない。市ホームページには346の全ての事業見直しを一覧にまとめ、第2弾から第4弾まで掲載しているため、お手数をおかけするが確認いただきたい。皆様からいただいた意見を踏まえ、2月に市議会へ予算案を提出し、併せて最終的な事務事業の見直しを一覧にまとめ、公表する予定でいる。

→ こども図書館の休館方針により解散したボランティアサークルがあったとの意見は誤認であり、そのような事実はないことを確認した。